

新型コロナウイルスの感染対策として、少人数・申し込み制に変更して開催しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたのでご覧ください。次回8月のでがたんは8月14日(土)で、テーマは「てがたん樹木検定・夏編」です。ぜひご参加ください。8月1日の8時30分から電話での申し込みを開始いたします。

市民スタッフのみなさま、次回の下見は8月8日(日)です。

7月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→高野山香取神社→藤棚→手賀沼遊歩道
- 観察日時と天気：2021年7月10日(土) 10:00~11:00 晴れ
- 市民スタッフ：4人(石原直子、小泉伸夫、北村章子、伴野茂樹)
- 鳥博職員：1人(齊藤安行)

※太字は今月の案内人

観察した生き物の記録「*」は下見の時にだけ見られたもの

【鳥類】キジ科：キジ*／カイツブリ科：カイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ／キツツキ科：コゲラ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：ヤマガラ、シジュウカラ／ツバメ科：ツバメ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／エナガ科：エナガ*／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ／アトリ科：カワラヒワ*／ホオジロ科：ホオジロ／家禽や外来種：コブハクチョウ、ドバト

【両生類】トウキョウダルマガエル、ウシガエル、ニホンアマガエル

【爬虫類】アオダイショウ*

【昆虫】トンボ目：アオモンイトトンボ、クロイトトンボ、コフキトンボ、ノシメトンボ、コシアキトンボ、ウチワヤンマ／バッタ目：ウスイロササキリ、コバネイナゴ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、キンヒバリ、シバズ、マダラスズ、エンマコオロギ／カマキリ目：コカマキリ、ハラビロカマキリ(幼体)／ゴキブリ目：モリチャバナゴキブリ／カメムシ目：セイタカアワダチソウグンバイ、ツツジグンバイ、マルカメムシ、ナガメ、シロヘリカメムシ、ニイニイゼミ／コウチュウ目：ナミガタチビタムシ、クロウリハムシ、サンゴジュハムシ*、キバラルリクビボソハムシ、コフキゾウムシ、スグリオサゾウムシ、マメコガネ、カナブン、カブトムシ／ハエ目：キンバエ、ニクバエ、アシナガバエの仲間、ヒラタアブの仲間／チョウ目：ルリシジミ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、ナガサキアゲハ、ジャコウアゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、アカボシゴマダラ(幼虫)、イチモンジチョウ、コジャノメ、ナミヒカゲ、キタテハ、ヒロヘリアオイラガ(幼虫)、キドクガ(幼虫)、セスジスズメ(幼虫)、アケビコノハ(幼虫)*、フタナミトビヒメエダシャク(幼虫)*／ハチ目：コガタスズメバチ、モンズメバチ、スズバチ、セイヨウミツバチ、クロヒラアシキバチ、ハグロハバチ(幼虫)*

【クモ】コガネグモ、ナガコガネグモ、サツマノミダマシ、ワキグロサツマノミダマシ*、イオウイロハシリグモ、アシナガグモ、クサグモ、ササグモ*、アリグモ、マミジロハエトリ

【草の花】ドクダミ科：ハンゲショウ／ラン科：ネジバナ／アヤメ科：ニワゼキショウ／ワスレナグサ科：ヤブカンゾウ／ツユクサ科：ツユクサ、ヤブミョウガ、ノハカタカラクサ／イグサ科：クサイ／イネ科：シマスズメノヒエ、セイバンモロコシ、ネズミムギ／ブドウ科：ヤブカラシ／アカバナ科：オオマツヨイグサ、コマツヨイグサ、ユウゲショウ／マメ科：ムラサキツメクサ、シロツメクサ／カタバミ科：ムラサキカタバミ／タデ科：ミズヒキ／ヒコ科：ナガエツルノゲイトウ／オシロイバナ科：オシロイバナ／アカネ科：ヘクソカズラ／オオバコ科：オオバコ、ヘラオオバコ／サギゴケ科：トキワハゼ／ハエドクソウ科：ハエドクソウ／クマツヅラ科：クマツヅラ／キク科：ヒメジョオン、ブタナ、ノゲシ、セイヨウタンポポ、ウラジロチチコグサ

【木の花】トウダイグサ科：アカメガシワ／モクセイ科：トウネズミモチ

7月の観察アルバム



今回は、植物の葉や茎や幹に残された食べあとやこぶ、穴を見つけて、それが誰のしわざなのか追跡してみました。1時間の探索の中で、しわざの主をいくつか見つけることができました。昆虫の仲間によってそれぞれ特徴のある痕跡を残していることを観察することができました。



今月の案内人
小泉伸夫・石原直子



①ウマノスズクサの葉を縁から食べていたジャコウアゲハの幼虫



②フシダニによってできた虫こぶのエノキハイボフシ



③ボントクタデの葉上のナガメ

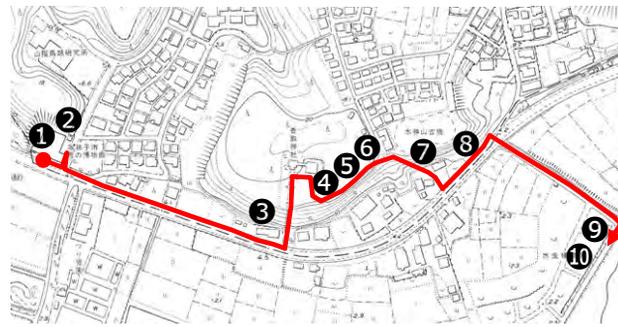


④シラカシの樹幹を歩き回っていたキマワリ

歩いたルートと観察した生き物



⑤エノキの葉を縁から食べていたアカボシゴマダラの幼虫



⑥茶色く変色したムクノキの葉の中に潜っていたナミガタチビタマムシの幼虫



⑦樹液を吸っていたカブトムシとカナブン



⑧ヤブガラシの葉を食べていたセスジズメの幼虫



⑨ヤマノイモの葉を穴だらけにして食べていたマメコガネ



⑩樹上でさえずっていたホオジロ

今月の鳥 ホオジロ (スズメ目ホオジロ科)

ホオジロは、全国の山地から平地の草地に広く生息しています。手賀沼周辺では一年中見られ、4月から7月の繁殖期には、オスがさかんにさえずり、なわばりを主張します。一番高くて目立つところでさえずるので、声のする方向を探せばその姿を見つけることができます。さえずりは、昔から「一筆啓上つかまつり候」とか「源平つつじ、白つつじ」と聞きなされ親しまれています。オスの守るなわばり内の藪の中に造られた巣ではメスが抱卵し、5月中旬頃から巣立ちビナの姿が見られるようになります。



手賀沼周辺で見られたホオジロの幼鳥